

第78回東京女子医科大学学会総会
シンポジウム「東京女子医科大学の臨床研究への取り組み
—東京女子医科大学病院臨床研究支援センター設立にあたって—

日 時 平成24年9月29日(土) 14:00～16:00

会 場 東京女子医科大学 弥生記念講堂

座長 (東京女子医科大学病院臨床研究支援センターセンター長) 石郷岡純

開会の挨拶

(東京女子医科大学学長) 宮崎俊一

1. わが国の研究開発振興策 (厚生労働省医政局研究開発振興課課長) 佐原康之
2. 臨床研究支援センター (iCLIC) の紹介—研究者の思いを実現するために—
(東京女子医科大学病院臨床研究支援センター) 志賀 剛
3. 製薬業界からの期待 (日本製薬工業協会会長, 塩野義製薬社長) 手代木功
4. 医療機器の研究・開発・普及—臨床研究支援センターに求められる機能—
(医療機器センター理事長, 同医療機器産業研究所所長, 日本レーザー医学会理事長) 菊地 眞
5. 先端医療 (再生・医療機器) の実用化をパワーサポートする iCLIC
(東京女子医科大学先端生命医科学研究所教授) 村垣善浩
6. 指定発言
 - 1) (東京女子医科大学先端生命医科学研究所所長) 岡野光夫
 - 2) (早稲田大学) 笠貫 宏
7. 総合討論
総括発言 (東京女子医科大学病院院長) 立元敬子

序 文

(臨床研究支援センターセンター長) 石郷岡純

平成24年9月29日日本学弥生記念講堂において表記のシンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、本年4月に正式発足した臨床研究支援センター (iCLIC) の趣旨、活動の概略を広く各界の方々に知っていただくとともに、臨床研究推進の意義を共有し再確認することを目的として企画されました。新規医療技術の開発、治療の最適化・標準化を推進することは国をあげて取り組んでいる課題であり、国民の健康増進のために欠かせない事業であります。本学はこれまでも臨床研究に活発に取り組んできましたが、さらにこれを飛躍させるには研究者への支援組織の存在が不可欠であることが共通認識となり、「臨床に強い病院」から「臨床研究に強い病

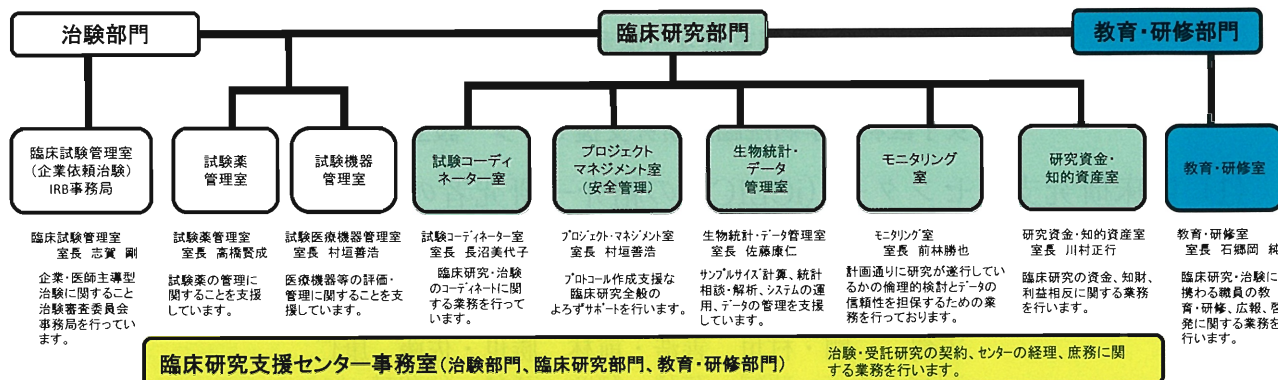
院」へ」を合い言葉に iCLIC が誕生しました。

本シンポジウムでは、厚生労働省研究開発振興課長の佐原康之氏からわが国の研究開発推進策の紹介と女子医大への期待が述べられた後、手代木功氏(日本製薬工業協会会長)、菊地眞氏(医療機器センター理事長)よりそれぞれの業界の立場から期待と励ましの講演をいただき、本学に対する期待の大きさと重責感を再認識されました。また、本学 iCLIC の中核メンバーである志賀剛氏、村垣善浩氏からは、組織の紹介と iCLIC を利用した研究の将来像が語られ、研究者にとって魅力的な組織が誕生したことが強く実感できたことと思います。さらに特別発言をお願いした岡野光夫氏(先端生命医科学研究所所

Jun ISHIGOOKA [Intelligent Clinical Research and Innovation Center, Tokyo Women's Medical University Hospital]: Trends in clinical research of Tokyo Women's Medical University—A memorial for foundation of Intelligent Clinical Research and Innovation Center, Tokyo Women's Medical University Hospital—

臨床研究支援センター (iCLIC)

学内外の臨床研究に対し入口から出口まで組織化された支援を行い、世界トップレベルの研究成果を生み出すことを目的として臨床研究支援センターの本格活動がスタートいたしました。



長)からは、進行中の魅力的なシーズや研究体制の紹介が、笠貫宏(早稲田大学、本学名誉教授)からはトランスレーショナル・リサーチの概念が語られ、iCLICを取り巻く環境がすでに十分熟していることが伝わってきました。

宮崎学長と立元院長のご挨拶の中では、臨床研究の推進がわが国および本学にとっていかに重要であ

るかが力説され、大学・病院をあげてiCLICの活動を全面的に支援していく固い決意が参加者へのメッセージとして表明されました。iCLICは本シンポジウムの開催を皮切りに今後も様々な情報発信を続けていく所存であり、臨床研究のプロデューサーとしてみなさまのお手伝いをしてまいります。